

B-7 「音楽と表現」

(1) 科目の紹介

基本情報	平成 26 年度・教養教育・後期		曜日・校時	火 3 限	
モジュール名	ことばと文化		科目名	音楽と表現	
教員名(所属)	西田 治(教育学部)			教室	[教]11 講義室
選択者数	48 名	2 年生の所属学部	医学部	工学部	環境科学部
再履修数	6 名		(25 名)	(16 名)	(7 名)
授業のねらい： 音および音楽の表現力・影響力について体験的に理解し、それについて自らの言葉で語ったり書いたりすることができる。また、それを他者に伝え共有することができる。					
アクティブ・ラーニングに向けて工夫した点： 導入(1～5回)は、参加型音楽ワークショップをグループ活動で実施した。これにより音楽そのものについて学ぶと同時に、グループ内の学生同士の交流が生まれ、その後のディスカッションが円滑となった。 アート・プロジェクト(6～15回)では、「長大学生が選ぶ長崎残したい音風景〇〇選」の選定作業を行い、プロジェクトの方針から内容までを受講生の合意で作りあげ社会に向けて発信する活動を行った。グループ活動を基本とし受講生同士での相互チェック、話し合いを毎回取り入れた。発想をまとめる際にはグループごとに KJ 法を用いたり、全員の合意を形成する場面ではクリッカーを使用しての投票などを行った。また、個人発表の機会を複数回作り、全員が意見を発表する機会を設定した。 毎回、復習課題もしくは予習課題を課し、LACS 上で提出させた。					

(2) 学修の評価

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○音、音楽の演奏と聴取の多様性に体験的に気がつくことができる。 ○音楽の得手、不得手の区別なく共存するグループにおいて、他者と協力して音楽表現を作り出したりそれについて話し合うことができる。 ○音および音楽について自らの言葉で語ったり書いたりすることができる。 ○自らの体験や考えを分かりやすく相手に伝えることができる。
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ○第 1 回から 5 回 振り返り 6 点/1 回 × 5 回分 = 30 点 4 段階評価 優：6 良：4 可：2 不備がある/提出遅れ：1 未提出：0 ○第 6 回から 15 回 課題 10 点/1 回 × 7 回分 = 70 点 4 段階評価 優：10 良：7 可：4 不備がある/提出遅れ：2 未提出：0

(3) 授業の進行

概要：		
回	学習内容	授業方法（講義、グループワーク、プレゼンなど）
1	オリエンテーション 音あそび（アイスブレイク） ボディパーカッション演奏	・グループワーク（演奏と振り返りのシェア）
2	グループ即興演奏への導入：グループによる創作 （ボディパーカッションを用いたグループごとの創作）	・グループワーク（話し合いによるグループでの創作、振り返りのシェア）
3	サウンドスケープ概論 （概要を理解した上で、キャンパス内をリスニングウォークする。）	・講義 ・ペアワーク ・グループごと振り返りのシェア
4	なんでもバスケットオーケストラ、ドラムの即興 （ファシリテーションありの即興演奏を行う）	・全員での創作活動 ・グループごと振り返りのシェア
5	即興演奏：雨降り雲、トーンチャイムによる即興 （ファシリテーションなしの即興演奏を行う）	・全員での創作活動 ・グループワーク（グループごとの創作活動、振り返りのシェア）
6	アートプロジェクトの開始 音風景の言語化1 言語化のコツ 音風景を言語化するコツを受講生同士の原稿から見出し集約する。	・グループワーク（グループ内での個人プレゼン） ・代表者による全体へのプレゼン ・全体討議（コツを発見し集約する）
7	音風景の言語化2 言語化の例 絵本やエッセイを参考に音風景の言語化について学ぶ。	・講義 ・グループワーク（相互チェック）
8	音風景の選定の意義 音風景選定の意義を先事例をもとに考察し、今回の選定方針を決定する。	・グループワーク（グループ内での個人プレゼン、KJ法をつかった話し合い） ・クリッカーによる合意形成
9	長大生が選ぶ音風景 選定作業1 各自が音風景の候補となる音風景を言語化したものを持参しグループごとにチェックする。	グループワーク（コメント用紙を使って互いの原稿をチェック）
10	長大生が選ぶ音風景 選定作業2 プレゼン投票	全体の前で個人プレゼン クリッカーによる投票
11	長大生が選ぶ音風景 選定作業3 プレゼン 投票	全体の前で個人プレゼン クリッカーによる投票
12	長大生が選ぶ音風景 仮決定と検証作業	全体の前で個人プレゼン クリッカーによる投票

13	検証結果の報告 長大生が選ぶ音風景の本決定	グループワーク（検証報告書のシェアと話し合い）
14	編集作業	・グループワーク（原稿の最終チェックをグループごとに行う）
15	完成原稿の確認 講義まとめ「芸術は社会を変えることができるのか？」	・グループワーク（完成原稿のレイアウトを含めた最終チェック） ・講義

（４）授業の成果

全体の総括	<p>昨年度の反省から以下二点について改善を図った。</p> <p>一点目は、時間配分である。昨年度は時間にゆとりをもって講義を行っていたことが学生たちの集中力を切らす原因となっていた。その反省を生かし、今年度は、講義の内容を一新し、全体としてゆとりを減少させ、限られた時間内で音楽を作る、限られた時間内で制作物を作るということを意図し、講義のテンポを上げることで受講生の集中力が継続でき、作成物の質も上がった。</p> <p>二点目は、アイスブレイクの充実である。導入期に十分なアイスブレイクを行い、グループ内での交流を促すことで、その後のグループワークの円滑化を図った。</p>
今後の改善点	<p>毎回の課題（復習課題もしくは予習課題）によって評価を行ってきたが、評価の観点に曖昧さが残った。次年度以降、ルーブリックを作成して評価の客観性、到達点の明示を徹底していきたい。</p>

（５）アクティブ・ラーニングの充実に向けた提案

ポイント提案	<p>アクティブ・ラーニングを行う際、「教員－学生」の関係性も重要であるが、「学生－学生」という学生同士の関係性も重要であると考え。学部混成型ゆえに、モジュールⅡであっても50名の学生同士は互いを知らず打ち解けていない。全員と打ち解けることは難しいが、グループワークを基本とする場合、そのグループ内だけでも交流が円滑に行えるよう「学生－学生」の交流を促していく必要がある。これは学生たちに任せて自然に生まれるのを待つよりも、教員が意図して行っていったほうが効果的であると考え。学生たちからもアイスブレイクが有効であった、講義への参加意識が高まったという感想が聞かれた。</p> <p>また、アート・プロジェクトとして展開し、制作物を公開することが学生たちのモチベーションを高めることに寄与していたと考え。講義の成果を公にすることは、学生たちの力を社会に還元していく意味でも、学生たち自身の学びへのモチベーションを上げる意味でも有効であると考え。</p>
--------	--

参考になる資料	<ul style="list-style-type: none"> ・『アートプロジェクト 芸術と共創する社会』熊倉純子監修、水曜社、2014年 ・長崎大学におけるアクティブ・ラーニング事例集 ・その他、長崎大学のFD研修も非常に参考になっている。
---------	--

(別添資料)

○アート・プロジェクトとして作成・公開した電子冊子は以下にて閲覧できる。

2014年長大生が選ぶ“残したい長崎の音風景 17選”

<http://naosite.lb.nagasaki-u.ac.jp/dspace/handle/10069/35020>

2013年長大生が選ぶ“残したい長崎の音風景 16選”

<http://naosite.lb.nagasaki-u.ac.jp/dspace/handle/10069/34232>

○学生による授業評価結果

2014年度後期 期末 授業評価アンケート集計結果

■時間割コード	20140587030501	■実施日	2015年1月13日
■授業科目名	音楽と表現	■受講者数	53名
■曜日・校時	火曜日・3校時	■アンケート回答数	46名
■担当教員名	西田 治	■回収率	86.79%

■設問別評価集計表

<補足> 評価平均は、評価1×1/評価2×2/評価3×3/評価4×4/評価5×5で加重平均しています。

アンケート設問内容	評価平均	有効回答	評価構成(件数)						
			評価5	評価4	評価3	評価2	評価1	無回答	無効
1 シラバスは、授業の目標や計画及び評価方法を適切に示していた。	4.65	46	31	14	1	0	0	0	0
2 授業は目的達成のため計画的に進められていた。	4.65	46	31	14	1	0	0	0	0
3 授業担当者の教え方は適切であった。	4.70	46	33	12	1	0	0	0	0
4 授業担当者は、学生が質問や相談しやすい環境・雰囲気作りを行っていた。	4.65	46	31	14	1	0	0	0	0
5 自分は、シラバスに記載された授業目標を達成することができた。	4.61	46	29	16	1	0	0	0	0
6 自分は、この授業によって学習意欲が喚起された。	4.54	46	29	15	1	0	1	0	0
7 総合的にみて、この授業は自分にとって満足できるものであった。	4.67	46	32	13	1	0	0	0	0

■期末の授業評価

